



剪定枝木の堆肥化施設建設と、ビニールプラスチックの焼却について

高橋 弘行 (市井 悠々)

**問** 加須市は剪定枝を民間業者でチップ化し、リサイクル率は全国5位である。堆肥化だけがリサイクルではない。本市は、家具等は破碎し、剪定枝と一緒に燃やしている。現在、業者から10kg150円徴収し、年1億200万円の収入を得ているが、業者が持ち込む総量は把握しているか。

**答** 事業系として有料でごみが持ち込まれていることは承知している。

**問** ごみの約10%が木材等というが、すべてが剪定枝木ではない。説明の900トンは、枝木だけか。

**答** 枝木は、10%ではなく4%である。

**問** ごみ総量の10%が枝木で、リサイクルされると聞いていたが、総量は揃っていない。では、計画の新しい処理施設は、ビニール、プラスチック類



行田市駅のエレベーター設置の見込みについて

斉藤 博美 (日本共産党)

**問** 行田市駅のエレベーターの実現は地域及び利用者の長年の悲願である。進捗状況はどのようになっているか。

**答** 現在、エレベーター設置は未定である。

**問** 国土交通省で補助金を出し、以前からバリアフリー化を促進しているが、その事業について何か研究しているか。

**答** 国、市、鉄道事業者がそれぞれ3分の1を負担するという認識である。

**問** この国の事業は1日の利用客が2千人以上の駅においてバリアフリーが原則とされ、それ以下でもエレベーター等の設置を促進している。行田市駅は利用客が1日1700人である。秩父鉄道36駅で6番目に利用客が多い。このような観点からも必要ではないのか。

**答** 秩父鉄道と協議の結果、費用が拠出される予定はない。現状では、市の単独事業としてはできないと判断している。

**問** 補助金の申請者は鉄道事業者であり、意識を持つのは秩父鉄道と考えるが、運輸局が年3回も鉄道事業者を対象調査をかけている。橋りょう駅は寄居駅、熊谷駅、行田市駅、羽生駅の4駅で、エレベーターもエスカレーターもないのは行田市駅だけである。残り1駅に何の対策もなく鉄道事業者の責任はどのようか。本市は秩父鉄道に安全対策費、新規事業費等、多額の税金を支出している。協議の中でもっと強く言うべきと考えるか。

**答** 秩父鉄道に対しては、行田市駅のエレベーター設置の要望書を提出しているところである。

**その他の主な質問**  
○「ゼロカーボンシティ宣言」について



学校再編による閉校後の地域への対応について

加藤 誠一 (黎明21)

**問** 来年4月、中央小学校と星宮小学校の再編統合で閉校する星宮小学校の施設再利用の検討状況はどうなっているか。

**答** 公共施設活用検討委員会では、公共施設マネジメント計画を踏まえ、既存施設の移転を前提に、改修費用、耐用年数等を考慮し検討中である。

**問** マネジメント計画で除却対象の教育研修センター下忍分室等の星宮小学校への移転は検討したか。また、どのような職員提案があったか。

**答** 除却対象施設の移転も検討している。主な職員提案はサテライトオフィス、文化財保存施設、移住者支援、防災備蓄保管場所等への活用である。

**問** 空き教室を活用し、防災拠点としての機能拡充を図る検討はしたか。

**答** 空き教室の備蓄品保管場所への活用も検討中

**問** だが、非常用電源の確保、物資積み下ろし場所の整備が課題である。

**問** 星宮公民館は築40年余で、事務室や調理室等の雨漏りや玄関への雨の吹込み等老朽化が著しい。星宮小学校への移転を優先的に検討すべきではないか。

**答** 検討の最中であり、特定の施設を優先して検討することはできない。

**問** 閉校後の地域において、子ども会や育成会の活動は従来どおり続けられるのか。

**答** 地域において、継続することに何ら支障はないと考える。

**問** 地域コミュニティにとって地元小学校の閉校は大きな喪失感を生む。小学校口スへの対策は。

**答** 自治会への聞き取りや住民アンケート等によりニーズを確認し、必要な支援を行っていききたい。